

宮崎経済の動きがここでわかる!

文字のサイズを変更する



検索

ホーム > キーパーソン

キーパーソン

<< 前へ || 1 | 2 | 3 | ... | 166 | 167 | 168 || 次へ >>

内山建設社長 内山雅仁さん

ツイート 0

いいね! 1

2013年03月04日

スギ樹皮再利用事業で地域貢献

「社会にとって必要な会社であり続ける」という経営理念を礎に、3代目社長として1955(昭和30)年創業の建設会社をけん引する。異業種参入で展開する「スギ樹皮リサイクル事業」では、やっかいものとして焼却処分するしかなかったスギ樹皮で土壌改良材や園芸用土を生産。材価低迷のあおりを受け続ける地場産業の林業を「少しでも支えたい」という思いが行動を後押しする。「利益追求のみにはこだわっていない。地域に貢献できる会社を目指したい」と話しながら、信念をみなぎらせる。

日向市出身。1歳上の兄と同じように地元を離れ、中学から日向学院(宮崎市)へと進学した。幼いころから「次男なので、家業は兄が継ぐもの」と思っていたといい、香川大学へ進学した際も建設関係ではなく法学部を選んだ。「おぼろげながら世界を見たいと考えていた」と、商社など海外との関わりが多い仕事に就くことを思い描いていたという。大学OBから「取引先に海外展開している企業も多い」と進められ、旧三和銀行(現三菱東京UFJ銀行)に入行。充実した行員生活を送っていたが、29歳のときに転職が訪れる。

東京の大手ゼネコンに勤めている兄がサラリーマンを続けることを決めたため、当時社長だった父・壽男さん＝現相談役＝から「帰ってこい」と電話がかかってきたのだ。最初はかたくなに断っていたところ、父が「それなら会社を畳むしかない」と一言。幼いころに遊んでくれた社員の雇用のことなどが頭をよぎり、考え抜いた末に日向へ戻ることを決意した。

当時はバブルの絶頂期から景気が下降線をたどり始めた時期。景気のいいときには積極的に貸し付けを行いつつ、景気が悪くなると方針を百八十度転換した銀行のやり方に疑問も感じていたことも転職を後押しした。

中学時代から故郷を離れて暮らしたことが影響してか、「それまでは、特に地元に愛着を感じていなかった」。それでも「どうせ帰るのなら、日向のために少しでも貢献したい」と気持ちをがらりと切り替え、現場も経営全体も広く見渡せる管理係長として働きながら、業界の変革に取り組んだ。例えば、工事現場近くの住民らに対する配慮、工事の内容や進捗(しんちょく)状況を知らせるホームページ作成など、今では当然のようにになっている配慮をいち早く取り入れた。

業界からも、社の内部からも理解が得られない部分があつて百パーセントのパフォーマンスはできなかったが、「できる範囲でやっていく」と踏ん張った。ありがたかったのは、当時の建設省局長級幹部が、仕事の取引もなかったのに、改革に理解を示してくれたこと。それも励みに新しいことに挑戦を続けていくうち、業界内から



スギ樹皮を再利用してつくった園芸用土。内山さんは「リサイクル事業が林業の活性化にもつながればいい」と話す

キーパーソン

- 03月04日
内山建設社長 内山雅仁さん
- 02月28日
加藤えのき社長 加藤修一郎さん
- 02月25日
宮崎信用金庫理事長 武本強さん
- 02月21日
県産業支援財団コーディネーター
佐々木隆行さん
- 02月18日
宮崎竹田青果社長 恒益康さん
- 02月14日
早川しょうゆみそ社長 早川洋さん
- 02月07日
ラ・ディッシュ社長 佐藤龍三郎さん
- 02月04日
サンクルシステム社長 宮永泰宏さん
- 01月31日
宮崎観光ホテル社長 田川勝美さん
- 01月28日
カリノ宮崎支配人 徳丸賢治さん

アーカイブ

- 2013年03月
- 2013年02月
- 2013年01月
- 2012年12月
- 2012年11月
- 2012年10月

の理解も少しずつ広がっていった。



「必要とされる会社となるために地域貢献にも力を入れたい」と話す内山さん

新しいことへの挑戦の一つが、異業種参入の「スギ樹皮リサイクル事業」。従来、樹皮は林業者が個別に焼却処分していたが、廃掃法改正に伴い既存の小規模焼却施設での処理が禁止された。焼却処分するためには大規模施設の整備費、処理コストが発生してしまう。「どうにかできないか」と林業関係者から相談を受けて、のり面やグラウンドの土壌改良材としてリサイクルする事業へ乗り出した。

2004年に関連会社として「有限会社エコロ」を設立。当初は生産を委託していたが、09年から自社製造をスタート。採算面は正直厳しかったものの、「地域のために」という思いが踏ん張る力となった。近年は園芸用土などの生産に力を入れ、需要の伸びを背景に好調な業績へとつなげている。

行員時代から付き合いがある大阪の大手企業社長に聞いた経営の考え方に共感する。「その会社が社会に必要であれば残っていく。逆に必要とされなければ淘汰(とうた)される」。40歳のころ、この考えに触れて進むべき道に確信を持った。「利益だけを追求しては企業は生き残れない。社会のため、地域のためにできることを考えていくことが、会社の存在価値を高める」。揺

るぎのない理念を胸に、これからも地域と共に在り続けていきたいと考えている。

そこが聞きたい

-これからの建設業界をどう生き抜いていくか。

土木、建築ともに堅実な仕事を続けることでお客さまから高い評価を得ており、業績は手堅く推移している。ただ、そこで満足してはいけない。今後の地域の人口動向、環境変動を注視し、社として貢献できるような事業を展開していきたい。

-有限会社エコロで力を入れる商品は。

県が開発した「**Mスターコンテナ**」。さまざまな段階で調節ができる筒状容器を使った育苗技術で、全国の林業関係者から問い合わせがある。スギ、ヒノキの苗だけでなく、果樹にも使える技術で、面白いのはアスパラの苗に使いたいという人もいる。エコロで販売を担っているのも、世界に広められるよう微力ながら力になりたい。

わたしのオススメ

日向ひょっとこ夏祭りに関しては思い入れが人一倍強い。10年以上実行委員、2010、11年は実行委員長を務めた。日向ひょっとこ踊りは不思議な力がある踊りで、見る人、踊る人、皆を笑顔にしてくれる。実行委員長のときに、東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城と岩手県の6市で踊りを披露した。被災者へ「明日への元気」と「笑顔」を届けることができ、この踊りの素晴らしさをあらためて感じる事ができた。(談)

プロフィール

うちやま・まさひと 日向市出身。日向学院中・高、香川大学と進学し、旧三和銀行(現三菱東京UFJ銀行)に入行、大阪の心斎橋、梅田店などに勤務した。29歳で帰郷して内山建設に入社、35歳から社長職を務める。帰郷後サーフィンを始めましたが、いまは忙しくてなかなか波に乗れない。リラックス方法はおいしいワインを飲むこと。1968(昭和43)年1月生まれの45歳。



「宮崎経済をリードするキーパーソン100人 第1弾」好評発売中。

価格は840円(税込み)。県内主要書店で販売。

問い合わせは宮日文化情報センター TEL0985(27)4737

[ホーム](#) |
 [ご利用規約](#) |
 [個人情報の取り扱いについて](#) |
 [著作権について](#) |
 [特定商取引法に基づく表記](#) |
 [お問い合わせ](#) |
 [サイトマップ](#)

宮崎日日新聞

Copyright (C) 2013 Miyazaki Nichinichi Shimbun. All Rights Reserved.